

# トルコ共和国災害派遣活動報告

小児科医 李権二

私は国際緊急援助隊医療チームの小児科医として、トルコ共和国で地震被害にあった子供や母親の診療を行いました。3月4日に羽田空港を出発し、日本各地から参加したスタッフと約2週間、可能な限りの医療を提供しました。

現地のトルコ人通訳の皆様には大変お世話になりました。トルコ語を知らない私も、患者としっかり向き合うことができました。中にはトルコ語が不自由で、アラビア語しか話せないシリア難民の家族もいました。多くの診察を通じて、言語や文化の壁を超えた医療の難しさを感じました。

チームは心のケアにも力を注ぎました。被災者は体だけでなく心も傷ついていることが多いため、気持ちに寄り添い、温かい言葉をかけ、慰めることが必要でした。診療テントでは患者の話に耳を傾け、心を開ける環境を作ることを心がけました。

現地の関係者からは、日本の医療チームに対する感謝の気持ちが多く寄せられました。一方で私たち医療チームも、現地の仮設病院と連携し支援してもらいました。残念ながら、帰国後は直接的な支援を続けることはできません。今後は、白井市役所の健康課と協力して、市民の皆さんにもこの経験を還元する方法を模索しています。

最後に、理事長や院長をはじめ、看護部、総務課、医事課の皆さんには多大なサポートをしていただき、快く送り出していただきました。この場を借りて、心からお礼申し上げます。



現地で診察や患者さんの話を傾聴する李医師（写真提供：JICA）